

# このひとをじっくり探してみますか？

## 第2回

### 藤田貞資 ふじた さだすけ

(享保19年9月16日～文化4年8月6日)



藤田貞資（以下、貞資）は、享保十九（一七三四）年、本田村（現在の深谷市本田）に本田親天の三男として生まれた和算家です。本名は定資で、晩年には貞資と改め、雄山と号しました。幼少より算術に優れていた貞資は、二十三歳で大和新庄藩（現在の奈良県葛城市新庄）藩士藤田定之の養子となり、姓を藤田に変えました。

その後江戸に出た貞資は、当時和算の主流であった関流算術を大成し、免許制度を導入して流派を大いに盛り上げた山路主住（以下、主住）に和算を学びました。実力を認められた貞資は、主住の助手として幕府で天文方として仕事をしながら勉学に励み、明和三（一七六六）年関流の免許で最も位の高い『印可免許』を授かります。しかし、眼病を患ったことから、明和四（一七六七）年やむなく天文方を辞めました。眼病の治療に専念していた貞資に手を差し伸べたのは、主住門下の兄弟子にあたる久留米藩（現在の福岡県久留米市）藩主有馬頼隆でした。明和五（一七六八）年貞資は和算の師範として久留米藩に出仕し、以降四十年にわたり久留米藩に任せ、多くの門人を育てました。代表的な門人としては、伊能忠敬のもとで日本地図の作製に貢献した小野栄重や、息子の藤田嘉言がいます。



▲貞資の名を世に広めた『精要算法』（日本学士院蔵）

また貞資は、多数の著作も残しました。天明元（一七八一）年に刊行された『精要算法』は貞資の最も主要な著書です。和算の発展の中で雑多で難解になっていた設問を整理し、実用性や数学的価値の高いものを精選して、わかりやすく解説したものでした。『精要算法』は和算を学ぶ上での良質な教科書として一世を風靡し、その後算学教育に大きな影響を与えました。寛政元（一七八九）年には、息子の嘉言と『神壁算法』を著します。これは、当時神社や寺院に奉納されていた算額から厳選した問題をまとめたものです。

### 用語の手引

#### 『天文方』

天体・暦・測量・地誌などに関する仕事をする役所

#### 『算額』

和算の問題を書いた絵馬。自らの研究を発表したり神仏へ感謝を表したりするために、当時盛んに奉納されていました。

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

# 市長の深い話

深谷市長 小島 進



### 花園IC拠点整備プロジェクト本格始動

いよいよ花園インターチェンジ拠点整備プロジェクトが本格的に始動しました。

このプロジェクトは、アウトレットモールの集客力を活用し、市の観光と農業の振興および自主財源の確保を目的としています。

これまで、国や県などの関係機関との協議・調整や地権者の皆さまへの説明など、いろいろな段階を経て進めてきました。

そして3月26日、アウトレットモールを建設・運営する民間事業者の優先協議者として、三菱地所・サイモン株式会社と基本協定を締結しました。

同社は、御殿場や佐野をはじめ、日本国内に九つのプレミアム・アウトレットを運営しています。

同社の山中拓郎社長は「花園インターチェンジ拠点のアウトレットを御殿場と同様、あるいはそれ以上のものになりたい」とおっしゃられ、こちらが考えていた条件以上の事業計画を提示していただきました。

合併前のそれぞれの市町や合併後の深谷市では、先人たちがまちづくりのためのさまざまな開発やプロジェクトを行ってききました。

今回のプロジェクトは、そうした先人たちが行ってきたまちづくりにひけをとらない、東北・秩父地域の発展にも寄与する重要なものと考えています。

また、国が進めている地方創生の考え方に合致した、深谷の魅力が発信できる取り組みであるとも考えています。

30年、50年後、子や孫の世代に、このプロジェクトが評価されるものになっていきたいと思います。

実現に向けては、いろいろな課題がありますが、一つ一つ解決し、頑張っていきますので、皆さんのご理解、ご協力をお願いします。

### ありがとうの手紙



最優秀賞

小学校高学年の部  
青いぼくの筆箱へ

深谷小学校6年（現深谷中学校1年） 澁谷陽立 さん

青い筆箱ありがとう。一年生の時から六年間おつかれさま。角が少しはがれていたり、時々閉まらなかつたりすることもあるけれど、何だか他の筆箱に代えられなくて、ずっと使っているよ。

『あいうえお』が上手に書けなかったことや、かけ算九九がなかなか覚えられなかったことも、みんな知っているぼくの筆箱。ふたが閉まらないのは、ぼくの六年間の思い出がたくさん入りすぎているからかな。卒業まであと少し。卒業まで一緒にがんばろうよ。

### みんなの声BOX

Q 市内で行われる道路工事などの情報を知るには、どうすればいいですか？

A 市ホームページの「ふかやMap」をご利用ください。

「ふかやMap」では、市が発注した道路や水道などの工事情報（契約額500万円

以上の工事）のほか、公共施設やAED設置場所、避難所などの情報もご覧いただけます。スマートフォンや携帯電話からも利用できます。

問い合わせ  
情報システム課 ☎574-8563



▲スマートフォン対応



▲携帯電話対応